

《愛の伝説》 あらすじ

【第1幕】



<第1場>

メフメネ・バヌー女王の宮殿。女王の妹シリン王女は不治の病で余命幾ばくもない。メフメネ・バヌーは絶望し、宮殿全員が悲しみに沈んでいる。突然見知らぬ男が現れ、自分なら王女を助けられると言う。バヌーは、財宝や王位と交換に妹の命を救ってほしいと男に頼む。男はその申し出を拒み、メフメネ・バヌーが美貌を失うことが条件だと言い出す。彼女は妹のためならと承諾。男は言葉どおりにシリンの病を癒し、シリンは健康を取り戻した。しかしバヌーの顔は、醜く変貌してしまった。

<第2場>

シリンの宮殿の庭園。若いフェルハドら、宮廷画家たちが門を飾り付けている。そこにバヌーとシリンが、新しい宮殿を見るために庭園に入ってきた。2人はフェルハドの美貌に心を奪われる。



【第2幕】



<第1場>

人々が涸れてしまった泉を取り囲んでいる。水は全て宮殿に送られ、庶民は使うことができない。水を得るには、山を切り開き水路を造らねばならないが、それは尋常ではない重労働だ。

<第2場>

バヌーはフェルハドへの恋に苦しんでいる。宮廷ではバヌーの気晴らしを試みるが、救いにはならない。妹のためとはいえ大きな犠牲を払ってしまった。かつての美貌は失われ、フェルハドが醜い自分を愛することなどあり得ない、バヌーは悔やむ。

<第3場>

献身的なフェルハドの愛にシリンはこの上ない幸せを味わっている。フェルハドがシリンの部屋に忍び込んできて、2人は喜びに浸る。

しかし、シリンはいずれ彼を失うかもしれないと不安になり、ためらいなくフェルハドと共に宮殿から逃げ去る。シリンが姿を消したことに廷臣が気付き、女王に知らせるバヌーは激怒して恩知らずの妹を捕まえるように命令し、2人たちは連れ戻される。





シリンはフェルハドと別れさせないでほしいと姉に嘆願するが、バヌーは怒りで我を忘れ、フェルハドに果たせそうもない任務を課す。“山を切り開いて、高台にある水源から谷まで届く水路を造れ”と命令したのだ。そして、その水路が完成しない限り、シリンとフェルハドの結婚は許されない。

【第3幕】



＜第1場＞

夜、フェルハドは1人で山に行く。そして、岩の中に造った水路をゆっくりと水が流れている様子を想像する。流れの中には愛するシリンが立っている。

＜第2場＞

バヌーは何もかもが上の空になるほどにフェルハドを愛し、すっかり心が乱れてしまっている。昼も夜もフェルハドのことが頭から離れない。美貌を取り戻してフェルハドに愛され、幸せになる様子を夢想する。

＜第3場＞

山には希望をもった人々が集まっている。もしフェルハドが水路を完成させれば、水を捜す苦労は終わるのだ。

フェルハドが岩を砕くたびにつるはしがたてる音が、人々の心に明るく響く。

メフメネ・バヌーとシリンが山に到着する。シリンの姿を見たフェルハドは大喜びだ。



しかし、狡猾な女王は、フェルハドが水路の完成を諦めてつるはしを置き、シリンとともに山を下りると約束すれば、二度と彼女と別れさせはしないと言い出す。

フェルハドは希望をもった人々を裏切ることができなかった。そしてシリンも彼の気持ちを理解し、ふたりは互いに別れを告げる。フェルハドは自分の幸せよりも、人々の幸せを選んだのだった。

